

川崎医療福祉学会 第6回 研究集会プログラム

平成6年6月8日

1. 地域基幹病院における退院患者統計に見る高齢者の動向

医療情報学科	*谷口 和夫・格和 勝利・田中 昌昭
	藤原 忠男・中島 行正・假谷 太一
	上田 智
川崎医療短大	大森 健三
附属川崎病院	樋口万太郎

2. 入学者選抜方法に関する基礎研究 (1)

臨床心理学科	*寺寄 正治・島田 修・金光 義弘
	安藤 正人・綱島 啓司

3. 入学者選抜方法に関する基礎研究 (2)

入学者選抜試験および進学動機と大学生活への適応度との関係

臨床心理学科	*綱島 啓司・島田 修・金光 義弘
	安藤 正人・寺寄 正治

4. 創造の意欲と能力を育む学習環境の提供

—マルチメディア時代を生き抜く人材養成—

医療情報学科	*上田 智
--------	-------

* 印：発表者

地域基幹病院における退院患者統計に見る高齢者患者の動向

医療情報学科	谷口 和夫・格和 勝利・田中 昌昭
	藤原 忠男・中島 行正・假谷 太一
	上田 智
川崎医療短大	大森 健三
附属川崎病院	樋口万太郎

高齢化社会の到来という社会状況から近年高齢者の入院が多くなっている。川崎医科大学附属川崎病院（病床数656，診療科16）における退院患者の過去10年間の病歴サマリーから高齢者患者の動向について解析を試みた。人口に対す

る高齢化率は確実に上昇しているがそれに伴い高齢者の入院割合も増加傾向にある。病床管理面から病床利用，病床回転率を見ると，高齢者の在院日数が長い為，高齢者の病床占有率が増加している。

入学者選抜方法に関する基礎研究 (1)

臨床心理学科 寺寄 正治・島田 修・金光 義弘
安藤 正人・綱島 啓司

本研究は、臨床心理学科における入学試験の妥当性について、選抜方法の適切さという観点から検討を行った。過去3年間に行われた一般入試における、入試科目間の整合性や高校の成績との関係について調べた。さらに、入試成績

や調査書得点と大学入学後の成績との関係について検討した。その結果、入試科目間の整合性が低いことや、入試成績は入学後の成績とほとんど相関しないことが明らかになった。

入学者選抜方法に関する基礎研究 (2)

入学者選抜試験および進学動機と大学生活への適応度との関係

臨床心理学科 綱島 啓司・島田 修・金光 義弘
安藤 正人・寺寄 正治

臨床心理学科の学生を対象に、進学動機、大学在籍目的、大学・学科選抜の手がかり、高校での学業成績、入試形態、および入試成績と大学生活への適応度との関係を調べた。入試成績と適応度との相関は見られないこと、進学動機

ならびに大学在籍目的としての「世俗的成功」と適応度との相関は見られないこと、偏差値のみに基づいて大学・学科を選択した場合、適応度が相対的に低くなる傾向のあること等々が示唆された。

創造の意欲と能力を育む学習環境の提供

—マルチメディア時代を生き抜く人材養成—

医療情報学科 上田 智

Student-Oriented System (SOS) を教育の基本とし、グループ学習と個人指導の組み合わせによる学生の自主的学習を中核に教育を実践している。プログラミング I, II (1 年次, 2 年次) および医療情報学実習 (3 年次) では、ソフトウェアの創作活動を課し、自主的にテー

マを決定し、1 年後に発表会を開催し、発表会には学外の専門家の参加を仰ぎ学生の作品の評価を受ける仕組みの中で授業を実施した。教育成果は、企業、病院および大学で高い評価を受けた。

講演：「本邦 体育心理の沿革」

健康体育学科 鷹野 健次

わが国の体育心理学は大正13年松井三雄が国立体育研究所に赴任してから始まるが、それは松本亦太郎が心理学の定量的研究による人間力の開発に力を入れたことによる。松井は「教育としての体育」の立場から体育心理学の体系化

に力を注いだ。

現在、日本体育学会は40歳を経過して、伝統的な教育としての体育か、世界的趨勢であるスポーツ科学の学会かの問題をめぐって盛んな論議をたたかわしている。